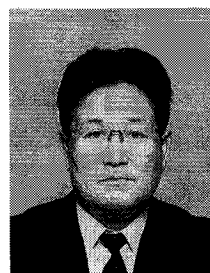




協体さあふじ

「藤沢市体育協会広報」第45号

発行日 平成12年8月1日
 発行・編集 藤沢市体育協会
 〒251-0026 藤沢市鶴沼東8-2
 秩父宮記念体育館内



「二世紀における

スポーツの役割

藤沢市体育協会

理事長 青山俊夫

昨今のスポーツを取り巻く状況は大きく変貌しようとしている。ニュースポーツの胎動と拡大、健康維持向上等を志向とした健康スポーツ等の増大である。

スポーツは、大変魅力的なものであり、多くの人に親しまれ、生涯にわたって愛すべき価値をもっている。そのためにスポーツを生涯の友としている人も少なくない。しかし、その利用方法を誤れば一瞬にして一生を台無しにしてしまう事もある。スポーツは、人間を健康にする為の一つの有効な方法であっても、万能薬ではない。このようなスポーツの持っているプラスの面とマイナスの面をしっかりと見つけながら「競技スポーツと生涯スポーツ」のあり方を模索し、市体育協会としてはこの状況をどの様に捉え、関わっていくかが議論されることである。このようなことを念頭におきながら現在の世相からスポーツを行う大切さ、とその持つ役割を今一度考えたいと思う。現代の文化状況のきわだった特徴の一つに「便利な」商品や環境が生

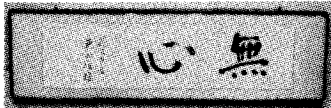
活の隅々までに行き渡り「便利な」生活文化が半ば強制的に作り上げられているような気がする。私は私だけであろうか。車社会の弊害、階段はエスカレーター等に変わり、ドアは自動的に開閉する。飲みたい物は自動販売機で何時でも買える。汚れた衣類は洗濯機に放り込めばよい。すべてこの調子である。常にこのような快適な生活が営まれているように気がする。このような生活は「快適な」生活であるかのように感じるが、ただ単純な「便利さ」だけの生活にすぎない。それは「自分の身体も頭も働かさなくてもすむ」ということであって「過程」抜きの「結果」だけが手に入ることになるからである。このような生活文化に象徴されているのは、とりわけ青少年層に強い影響を与えていると考えられる。それは、自分の身体を使い自発的な活動によって目標を達成する事の喜びを忘れ、身体を動かさずに直ちに欲求を充たそうとする思考に結びついていくからである。そしてまた自分の欲望だけを要求し、集団生活の中

で仲間との調和・協調し合えない事が多く発生していると考えられる。こうした傾向から仲間と共に、主体的・創造的に汗水流し粘り強く目標達成のために努力し、感動を共にするといった集団生活のあり方が大きく変わろうとしている。主体的・創造的な活動の中に人間の真の姿があり生活の力と豊かさが生まれ・育つものと考える。この力「人間らしく生きる力」の衰弱を感じてならない。スポーツという文化の特質は、自主的・積極的・創造的な不断のトレーニングによって技術の習得等を通して自己を乗り越える事にあると思う。つまり、自分から進んで自分の身体にムチ打ち、対象を克服するともに、自己自身を変革・創造するという過程にあると考える。しかもここには必ず人間的コミュニケーション・連帯が伴っている。ここに生み出される「感動」こそが人間のあり方の本質に触れた「生きる力・喜び」であると思われる。自己の精神と肉体を使うことなく充たされた欲求、つまり「便利さ」「快楽」とは決定的に違うものである。人間らしく生きる最も核心的な部分が侵されているとしか考えようのない状況が蔓延していくような気がしてならない。スポーツの持つ意義を再度考え直し、二世紀に向けて、共にスポーツを愛し、楽しみたいものである。

「無心」で健康増進

藤沢市弓道協会

『無心』これは秋葉台文化体育館弓道場に掲げられていることばです。弓道で『無心』は最終目標となるものです。二八メートル先にかげられた的は動かせませんが、上手く引けなくても、矢が中たらずに、その原因は自分にあることになりま



す。その為、自分を正しくして、矢を放つことが非常に大切なのです。

この、自分をいつも正しくするということが、即ち何事にもとられない一邪念の無い『無心』なのです。この域に達するために『有心』で毎日稽古するのは、自分の課題に取り組み努力する過程は非常に長い道のりです。道場で稽古を続けて行くこの過程の中に人との付き合いがあり、また楽しみもあります。

弓道協会には、下は高校生から上は八十歳代まで、様々な段階の人がいて、互いに励まし合いながらそれぞれの目標に向かって稽古しています。親子三代の弓道愛好家で、家族そろって一緒に試合に出場するのを

楽しみに稽古に励む人や、同年の間と競いながら練習する人など、それぞれが楽しみながら稽古を続け、その事が健康増進にもつながるので、弓道はまさに生涯現役の「生涯スポーツ」と言えるのではないでしょうか。

そして日々の稽古の成果を出し合う会として、ひと月に一度全員が集まる中数を競い合う射会を開いています。ここでお互いに良い刺激を得て、またそれが日々の稽古に生かされるのです。また協会の中だけでなく市民大会や布施杯大会など、広く市民弓道愛好家とも交流を持っています。神奈川県弓道連盟主催の大会にも出場し、日頃の成果を発表しています。

教歌という弓道の奥義につながる和歌がありますので紹介します。

立てぬ的引かぬ弓にて離つ矢は
中たらずともはずれざりけり

弓手夫妻は母なり矢は子なり
片想いして矢は育つまじ

「青少年に思う」

藤沢市空手道連盟

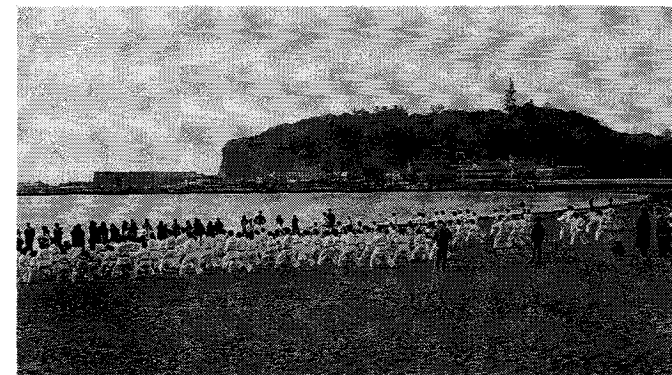
藤沢市空手道連盟は、平成11年度に創立30周年記念式典を開催いたしました。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



最近、未成年者による陰湿な事件の多さにびっくりしております。と同時に今こそ、空手道という気持ちで一杯です。

古き良き時代の、礼と節の大切さ、また、押忍のことばの持つ意味を、理解させることが本当に大切な時代だと痛切に感じます。17歳の少年の事件に思うのですが、純粋な修行目標をしっかりと持って、幼くして道場で泣いたり、笑ったり、そして、一杯汗を流して稽古している子供達を見ると、健全な身体に健全なる精神が宿るとの思いが、身に痛切に感じます。身に降りかかる火の粉は、己の手で払わなければならない時代に、本当になってしまいました。



H12.1 寒稽古風景

れんらくさき
木村 英 勇
でんわ (23)6570

連盟役員または指導者は、青少年の健全な育成に心と身体をいかに強くしていくか、自立訓練等の技術を習得し、自己啓発のできる藤沢市空手道連盟を、目指して精進努力していきたいと強く思っております。

連盟公認道場は、市内に数カ所ありますので、ご連絡お待ちしております。

平成11年度収支決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減
体 協 費	13,678,000	13,974,261	296,261
体 協 費	13,678,000	13,974,261	296,261
補 助 金	4,612,000	4,770,000	158,000
委 託 料	6,717,000	6,717,000	0
賛 助 会 費	1,650,000	1,722,000	72,000
分 担 金	536,000	543,000	7,000
繰 越 金	160,024	160,024	0
雑 収 入	2,976	62,237	59,261

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予 算 額	支 出 済 額	不 用 額
体 協 費	13,678,000	13,698,892	△20,892
運 営 費	13,678,000	13,698,892	△20,892
事 務 局 費	2,550,000	2,549,884	116
事 業 費	10,702,000	10,749,008	△47,008
積 立 金	400,000	400,000	0
予 備 費	26,000	0	26,000

収入済額 13,974,261円
 支出済額 13,698,892円
 差引金額 275,369円

平成12年度収支予算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予 算 額
体 協 費	13,264,000
補助金及び交付金	4,338,000
委 託 料	6,448,000
賛 助 会 費	1,650,000
分 担 金	551,000
繰 越 金	275,369
雑 収 入	1,631

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予 算 額
体 協 費	13,264,000
事 務 局 費	2,260,000
事 業 費	10,578,000
積 立 金	400,000
予 備 費	26,000

平成12年度藤沢市体育協会事業計画

本年度藤沢市体育協会では次の事業を展開します。

- 一、評議員会、理事会、常任理事会、専門部会の開催
- 二、藤沢市体育協会の組織運営に関する研究
- 三、藤沢市委託事業の実施

(1) 第55回藤沢市民総合体育大会開催事業

(2) 第51回神奈川県総合体育大会藤沢市代表選手派遣事業

(3) スポーツ人の集い講演会の開催

四、加盟種目協会への補助金交付

五、第16回「スポーツ人の集い」開催

六、先進都市体育協会への視察

七、藤沢スポーツ賞(功労者、優秀選手、敢闘選手)の表彰及び各種表彰に関する事業

八、県外スポーツ交流推進の助成事業

九、賛助会員の拡充

一〇、広報紙の編集、発行に関する事業

一一、体育協会史の編纂に関する事業の検討(60周年に向けて)

一二、種目協会会長の開催

一三、スポーツ関係団体との連携充実

一四、賛助会費及び積立金の活用検討

一五、その他体育協会の目的遂行に必要な事業

体育協会理事の変更

新理事 ゲートボール連合 林 富士夫

ヨット協会 林 幹雄

太極拳連盟 高橋 幸雄

どうぞよろしくお願ひ致します。

見たままを

正確にジャッジする 藤原 三枝子さん

―女性で初の審判員として全国

高校野球選手権大会神奈川

大会で活躍中―



藤沢市在住 昭和29年生まれ
神奈川県軟式野球連盟藤沢支部
(藤沢市野球協会 審判員)

この夏も社会人大
会で市内各グラ
ンドにおいて活躍
しております。



夏のあつい日ざしの中、さわやかな印象を与える高校野球大会で、今年も審判員として活躍する藤原さん。昨年全国初の高校野球女性審判員と

なり、注目を浴びた。高校時代ソフトボールの選手としてインターハイに出場した経験もある。

審判員になったキッカケは少年野球のミスジャッジを見たこと。泣いているチビッ子選手に同情し、どんな試合でも正確なジャッジを……、それなら自分でやってみようと決心した。

現在審判活動と併せて保健婦として、又、一男二女の母としてフル回転中の藤原さん。

その明るい笑顔と正確なジャッジは、今年も健在だ。

「法人倶楽部発足」

藤沢市ラグビーフットボール協会

スクールのクラブ化については、数年以前から藤沢市ジュニアラグビースクールの中で、夢として語られてきました。当時はまだ学校体育、企業スポーツ全盛の時代で、あらゆる年齢、性別、職業、国籍を網羅した地域のスポーツクラブなどは、夢のまた夢でした。しかし、ニュージールランドとの交流を通して、彼の国のスポーツクラブの地域における存在感とスポーツ文化の実体に触れたとき、我々の夢は間違っていないと意

を強くし、辛抱強く夢を持ち続けてきました。同時に彼らのクラブの、社会に対して果たしている役割と責任を考えたときに、「権利能力なき社团」としてのクラブで本当に耐えきれぬのかという問題に直面しました。そこに平成10年12月に市民団体の法人取得を容易にし、市民社会に貢献する活動を促進しようというNPO法が施行され社会的環境が整いました。

一方、近年スクールへの入学希望者は少子化を考慮してもなお減少傾向にあり、また、高等学校におけるラグビーチームの減少など、ラグビー人口の減少が明らかになっています。平成11年4月に開かれたスクール内の指導員研修会でも、「このままで藤沢市ジュニアラグビースクールの将来はあるのか」という強い危機感が提起されました。これを機に、スクールを卒業した者に限らず、高校でラグビー部がないためにやりたくてもできない高校生、体育会には馴染まないがラグビーをやりたい高校生や大学生、学業との両立が困難で学校でラグビーができない高校生、大学生、更には社会人、女性など年齢、性別、職業、国籍に関係なく門戸を広げ、ラグビーに親しむ機会を提供する地域に根ざしたラグビークラブを作ろうという機運が高まり、

クラブ化の準備が始まりました。その後、幾たびかの設立準備の打ち合わせを経た後、創立30年の節目の年である平成12年5月に認証を受け、NPO法人クラブ「藤沢ラグビー蹴球クラブ」を作りました。

このことにより、地域社会の人々がラグビーに親しみ、プレーをする機会を作り、その中から地域を代表するチームを育てる活動をしたと考えています。市民の手による市民スポーツ文化を高め、それらを通じ藤沢市ジュニアラグビースクールを将来にわたって地域社会の中で認められ、存続するものとしたと願っております。

今年度も賛助会員を募集しております。よろしくお願ひします。

編集後記

暑さ本番、いよいよ大好きな生ビールの季節となり、右手にペン左手グラスの編集でした。

さて、毎日青少年犯罪が新聞紙上を賑わせています。今回の紙面の中でも、関連記事が多く、スポーツが事態の解決につながるよう願うものです。

桜井・広瀬理事